【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公開番号】特開2002-258980(P2002-258980A)
【公開日】平成14年9月13日(2002.9.13)
【出願番号】特願2001-362587(P2001-362587)
【国際特許分類第７版】
　Ｇ０６Ｆ　1/12
　Ｇ０５Ｂ　15/02
　Ｇ０６Ｆ　1/10
【ＦＩ】
　Ｇ０６Ｆ　1/04　３４０Ａ
　Ｇ０５Ｂ　15/02　Ｍ
　Ｇ０６Ｆ　1/04　３３０Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成16年5月25日(2004.5.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
中央ユニットが別のユニットとフィールドバスを介して接続されている、複数のユニットで進行するプロセスを同期化する装置において、
前記中央ユニットがシステムクロックを生成する装置を有しており、前記別のユニットにシステムクロックを分配するためにフィールドバスの空き回線が設けられており、前記別のユニットにはシステムクロックを乗算する装置が設けられていることを特徴とする、複数のユニットで進行するプロセスを同期化する装置。
【請求項２】
システムクロックとともに、回転数ｎ、加速度ａ、角度位置φ、および場合により機械のその他の値を検出可能である、請求項１記載の装置。
【請求項３】
回転数ｎ、加速度ａ、角度位置φ、および場合により機械のその他の値などの検出された値を、バスシステムによって前記他のユニットに供給可能である、請求項２記載の装置。
【請求項４】
前記乗算ユニットがフィルタ装置を有している、請求項１記載の装置。
【請求項５】
前記乗算ユニットが、絶対時間アナウンスを認識する装置を有している、請求項１記載の装置。
【請求項６】
前記乗算ユニットがクォーツで安定化された周波数発振器を有している、請求項１記載の装置。
【請求項７】
前記乗算ユニットが、他のユニットで行われているプロセスのためのモジュールクロックを生成する、請求項２記載の装置。
【請求項８】
モジュールクロックが、他のユニットで行われているプロセスに応じて調整可能である、

請求項３記載の装置。
【請求項９】
システムクロックを分配するためのバスシステムがローカルバスシステムである、請求項１記載の装置。
【請求項１０】
中央ユニットで生成されるシステムクロックと、他のユニットで生成されるモジュールクロックとを備える、中央ユニットと他のユニットで進行するプロセスを同期化する方法において、
前記中央ユニットで生成されるシステムクロックが、他のユニットで生成されるモジュールクロックを同期化するために用いられることを特徴とする、中央ユニットと他のユニットで進行するプロセスを同期化する方法。
【請求項１１】
絶対時間に合わせた前記他のユニットの同期化が定期的な間隔で行われる、請求項１０記載の方法。
【請求項１２】
加入しているユニットの中に存在するモジュールクロックが、そこで行われているプロセスのために利用される、請求項１０記載の方法。
【請求項１３】
システムクロックがダウンすると、加入している他のユニットによって主導されているプロセスがモジュールクロックによって導かれながら停止させられる、請求項１０記載の方法。
【請求項１４】
モジュールクロックの周波数が、そこで進行している処理に応じて調整される、請求項１０記載の方法。
【請求項１５】
回転数ｎ、加速度ａ、角度位置φ、および場合により機械のその他の値の値が、システムクロックと同時に検出される、請求項１０記載の方法。
【請求項１６】
回転数ｎ、加速度ａ、角度位置φ、および場合により機械のその他の値の値が、検出時点と一緒に前記他のユニットに転送される、請求項１０記載の方法。
【請求項１７】
回転数ｎ、加速度ａ、角度位置φ、および場合により機械のその他の値の値が、中央ユニットによって伝送されてから次の最新の値が伝送されるまでの間、加入しているユニットの計算モジュールによって算出される、請求項１０記載の方法。
【請求項１８】
所定数の分割されたシステムクロックの後、中央の計算機ユニットから、加入している計算機ユニットに絶対時間が伝送される、請求項１０記載の方法。